



The Heart of Industry

2021年3月期 決算説明資料

2021年 5月25日

**株式会社イワキ**

証券コード：6237  
銘柄名：イワキポンプ



<b>I . 2021年3月期 決算概要</b>	<b>・・・P 3</b>
<b>II . 2022年3月期 業績見通し</b>	<b>・・・P 17</b>
<b>III . 育成期 中期経営計画について</b>	<b>・・・P 26</b>
<b>IV . Appendix</b>	<b>・・・P 34</b>

# I . 2021年3月期 決算概要

4 Qは直前四半期比で大幅増収。利益面は当初計画を上回る。

単位：百万円	2021年3月期 3Q 累計期間	2021年3月期 3Q 会計期間	2021年3月期 4Q 会計期間	差額
売上高	20,199	7,040	7,962	922
売上総利益 (売上総利益率)	6,851 (33.9%)	2,380 (33.8%)	2,851 (35.8%)	471 (+2.0pt)
営業利益 (営業利益率)	1,027 (5.1%)	315 (4.5%)	678 (8.5%)	363 (+4.0pt)

単位：百万円	2021年3月期 予想	2021年3月期 実績	差額
売上高	28,280	28,162	▲118
売上総利益 (売上総利益率)	9,498 (33.6%)	9,703 (34.5%)	204 (+0.9pt)
営業利益 (営業利益率)	1,332 (4.7%)	1,706 (6.1%)	373 (+1.3pt)

国内 医療機器向け落ち込み大きく、前年比減収・減益で着地。

	2020.3期		2021.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	28,636	28,162	▲474	▲1.7%
売上総利益 (売上総利益率)	9,806 (34.2%)	9,703 (34.5%)	▲103	▲1.1% (▲0.2pt)
営業利益 (営業利益率)	2,114 (7.4%)	1,706 (6.1%)	▲407	▲19.3% (▲1.3pt)
経常利益	2,578	2,222	▲356	▲13.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,122	2,091	▲31	▲1.5%
1株当たり 当期純利益	96.06 円	94.90円	▲1.16円	▲1.2%
自己資本当期純利益率 (ROE)	10.5%	9.7%	—	(▲0.8pt)
為替レート (期中平均)	ドル	109.03 円	106.77円	
	ユーロ	122.03 円	121.88円	

## 1 売上高 28,162百万円（前年比▲1.7%、▲474百万円）

- ✓コロナ禍で要対面取引の売上落ちるも、年度後半にかけては回復基調。
- ✓国内・海外 半導体・液晶向け、海外（主に中国）医療機器向けが牽引役となる。
- ✓2021年3月期におけるイワキルディックグループ（以下ING）売上高影響は648百万（連結調整前）。  
※同社3QよりPL連結取込み。
- ✓2021年3月期減収 最大要因は国内医療機器向け落ち込み。前年比▲947百万円。

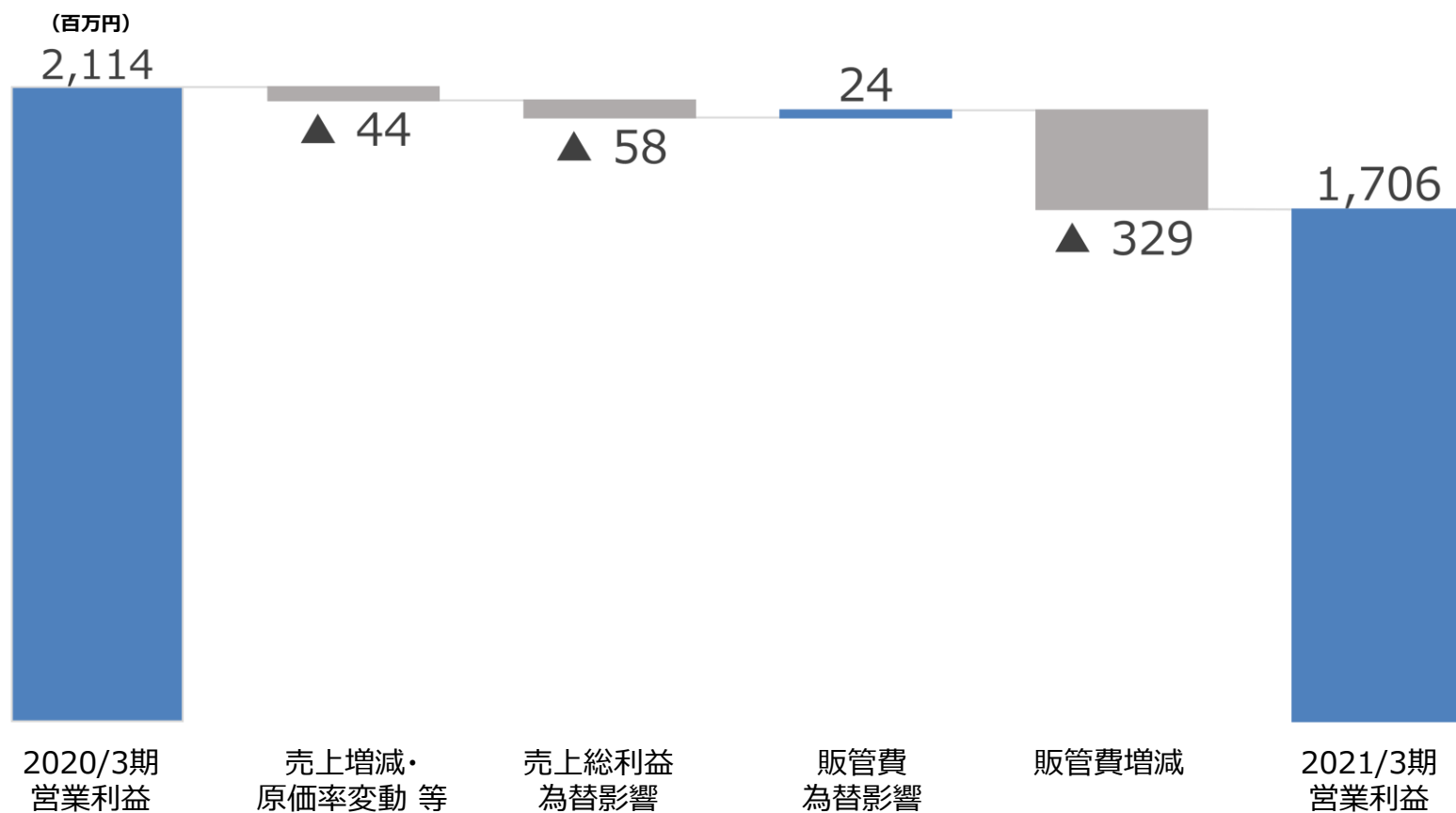
## 2 営業利益 1,706百万円（前年比▲19.3%、▲407百万円）

- ✓2021年3月期 ING連結取込みにおける売上総利益への影響額は+331百万円（連結調整前）。
- ✓国内医療機器向け大幅減により、売上総利益段階より前年比減（前年比▲1.1%、▲103百万円）となる。
- ✓販管費 主な増加要因
  - ・ING M&A費用 84百万円。
  - ・ING PL連結取込みによる影響額 279百万円。
  - ・のれん償却費 39百万円（ING分 38百万円）。
  - ・その他 外部倉庫費用等含め、販管費全体では前年比 +4.0%、304百万円増。

## 3 親会社株主に帰属する当期純利益 2,091百万円（前年比▲1.5%、▲31百万円）

- ✓香港からの持分法による投資利益増加。
- ✓特別利益にて、ING子会社化に伴う段階取得に係る差益発生（1Q）。

為替 1 円当たりの感応度	\$ (USドル)	€ (ユーロ)
売上	45 百万円	22 百万円
営業利益	14 百万円	8 百万円



営業機会減により売上影響出る。一方、コロナ禍による特需も発生。

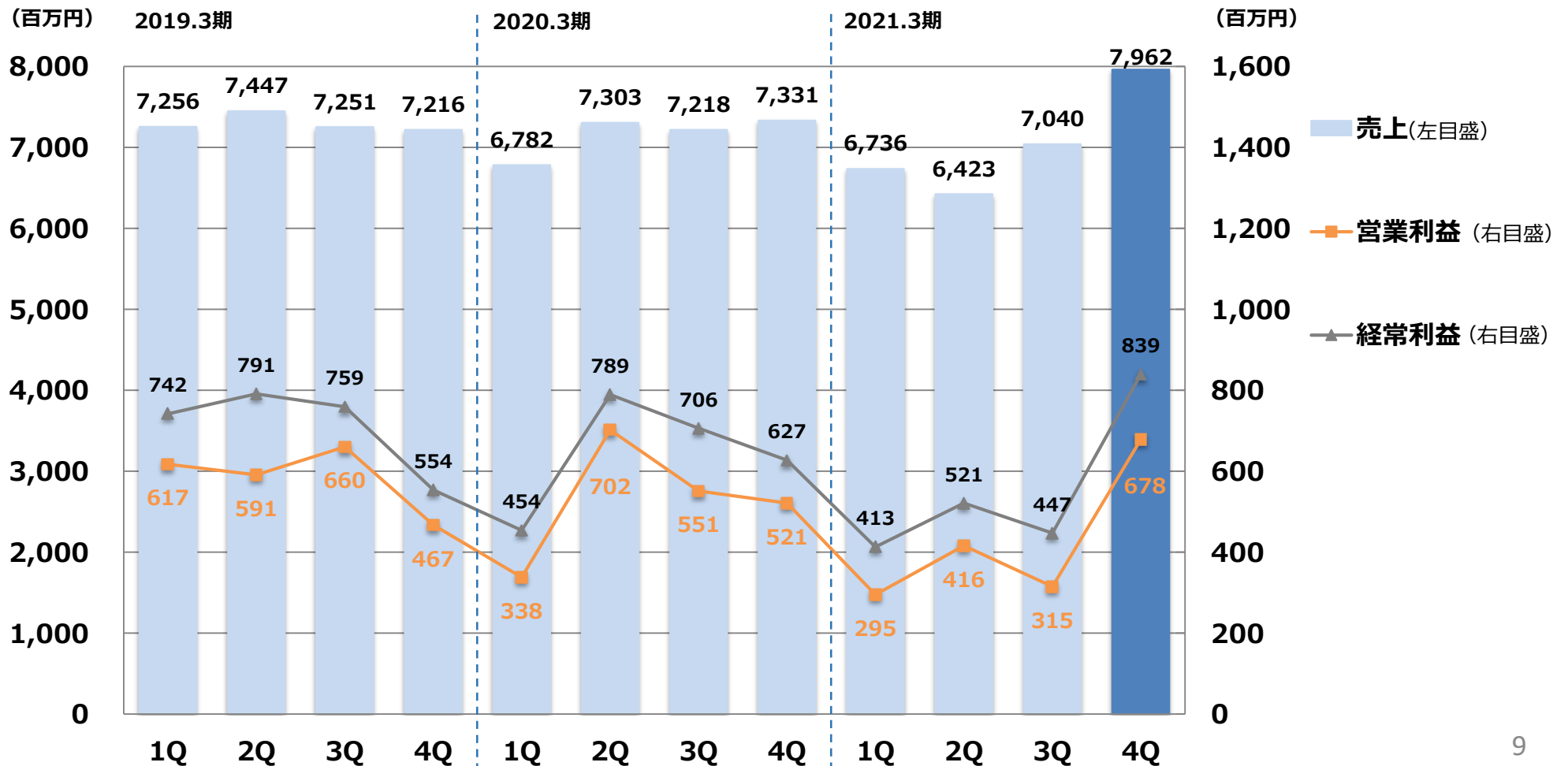
		営業面 (メンテナンス含)	生産・調達面	業績関連トピックス	感染状況	当社における 主な感染対策等
国内	1Q	通常稼働 顧客訪問制限有	生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	・消毒薬品用途向け活況	・感染第1波 ・緊急事態宣言 発出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅勤務の導入</li> <li>・時差・輪番出勤</li> <li>・執務時ソーシャルディスタンスの確保</li> <li>・健康管理の徹底</li> </ul>
	2Q				・感染第2波	
	3Q			・一部消毒薬品用途向け特需 ・医療機関や食品関連を中心に 現場への立ち入り制限続き、需要減	・年末にかけ感染者増加	
	4Q				・感染第3波 ・緊急事態宣言 再発出	
海外	1Q	通常稼働 顧客訪問制限有	生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	・中国医療機器向けコロナ特需発生 ・各国ロックダウンによる経済活動停滞	・世界各国で感染拡大 ・各国地域でロックダウン、渡航制限等の 措置が取られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅勤務の導入</li> <li>・輪番出勤</li> <li>・執務時ソーシャルディスタンスの確保</li> <li>・健康管理の徹底</li> <li>・国や地域のガイドラインに沿った各種感染予防策等</li> </ul>
	2Q			・中国コロナ特需ペースダウン	・米国 感染拡大傾向鈍化 ・欧州 国により感染拡大傾向にバラつき ・アジア 一部の国を除き状況改善傾向	
	3Q			・海上コンテナ需給逼迫	・米国/欧州 感染再拡大、規制強化 ・香港 感染再拡大 ・豪州 状況改善、規制等段階的に緩和	
	4Q			・海上コンテナ需給逼迫続く ・中国 ワクチン抗体検査用途向け好調 ・欧州 プロジェクター向け復調	・米国 所在州状況改善、規制等緩和 ・南米 各国状況大幅に悪化 ・欧州 各国で状況深刻化、 連邦政府主導で接触制限等強化	

※ 赤字はネガティブな影響



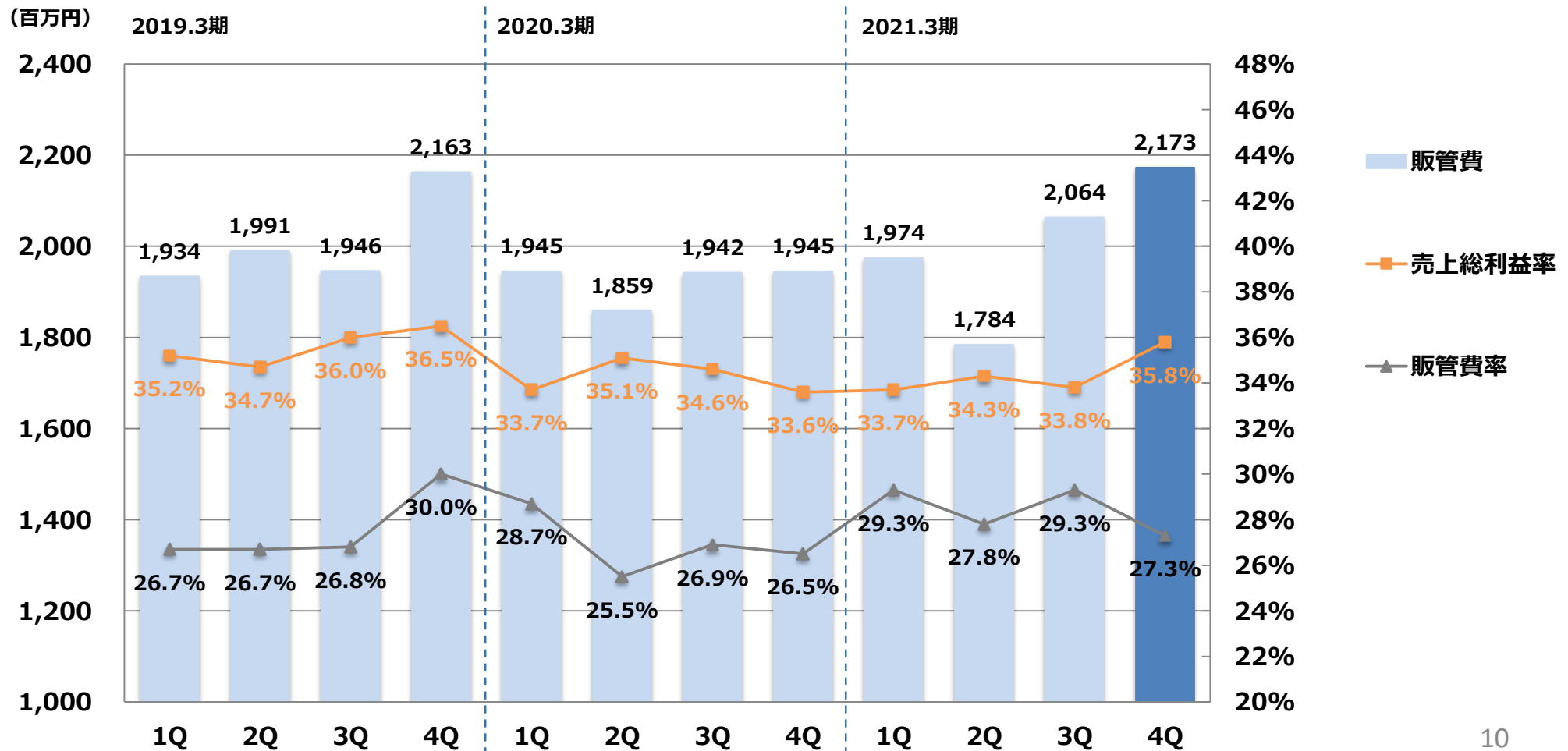
## 6 売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

半導体・液晶向けを中心に売上・受注ともに好調。2021年3月期4Q売上は直近3年間で  
の最高額となる。4Q ING売上高影響（連結調整前）除いても最高額。









# 7 売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

2021年3月期3Q及び4QはING PL連結による影響額（4Qまでの累計279百万円）、ING のれん償却費（同累計38百万円）を含む。前述費用を除くと販管費は従前水準並み。



多様な販売市場を有しており、コロナ禍においても強みとなる。

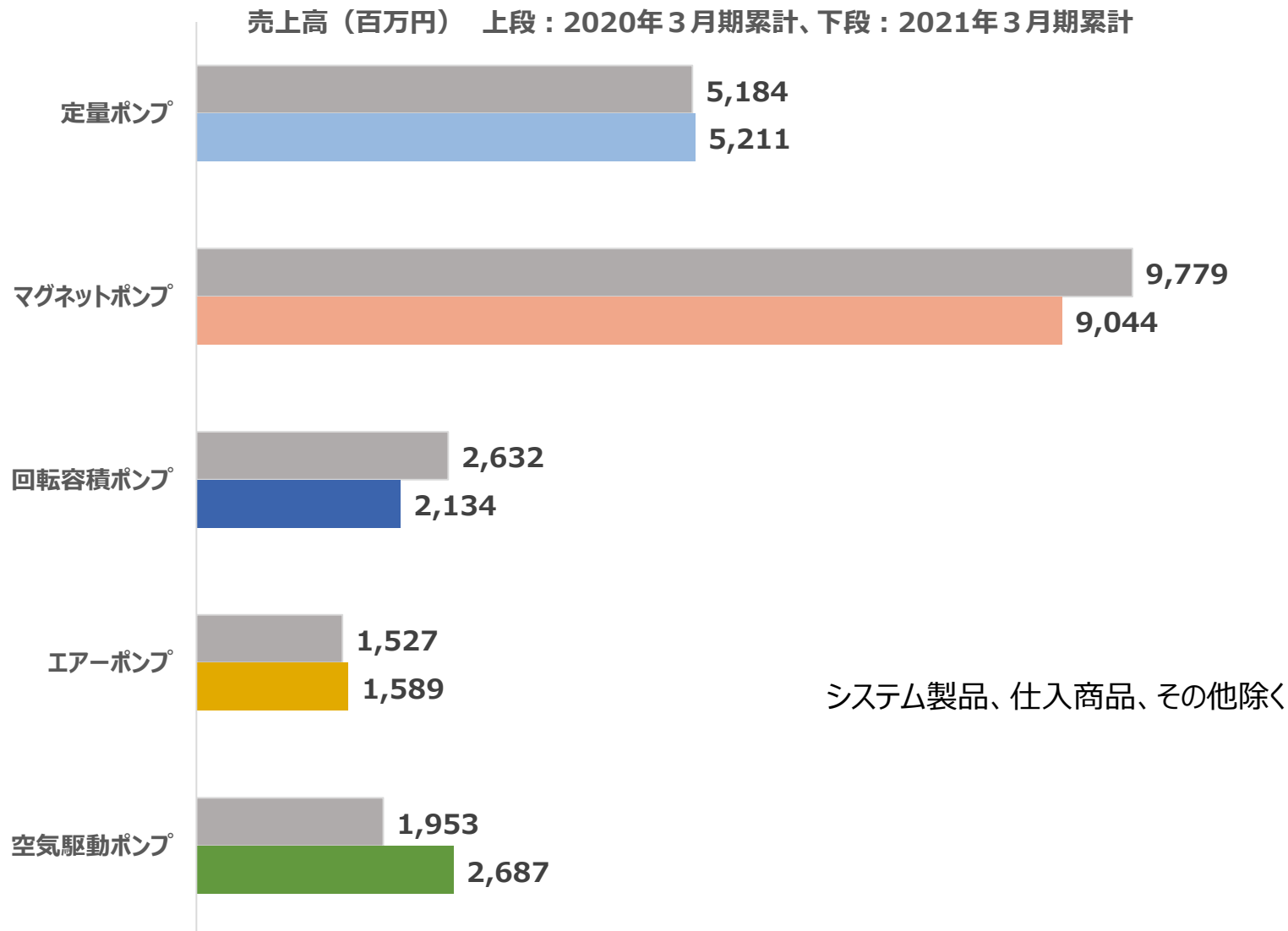
マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

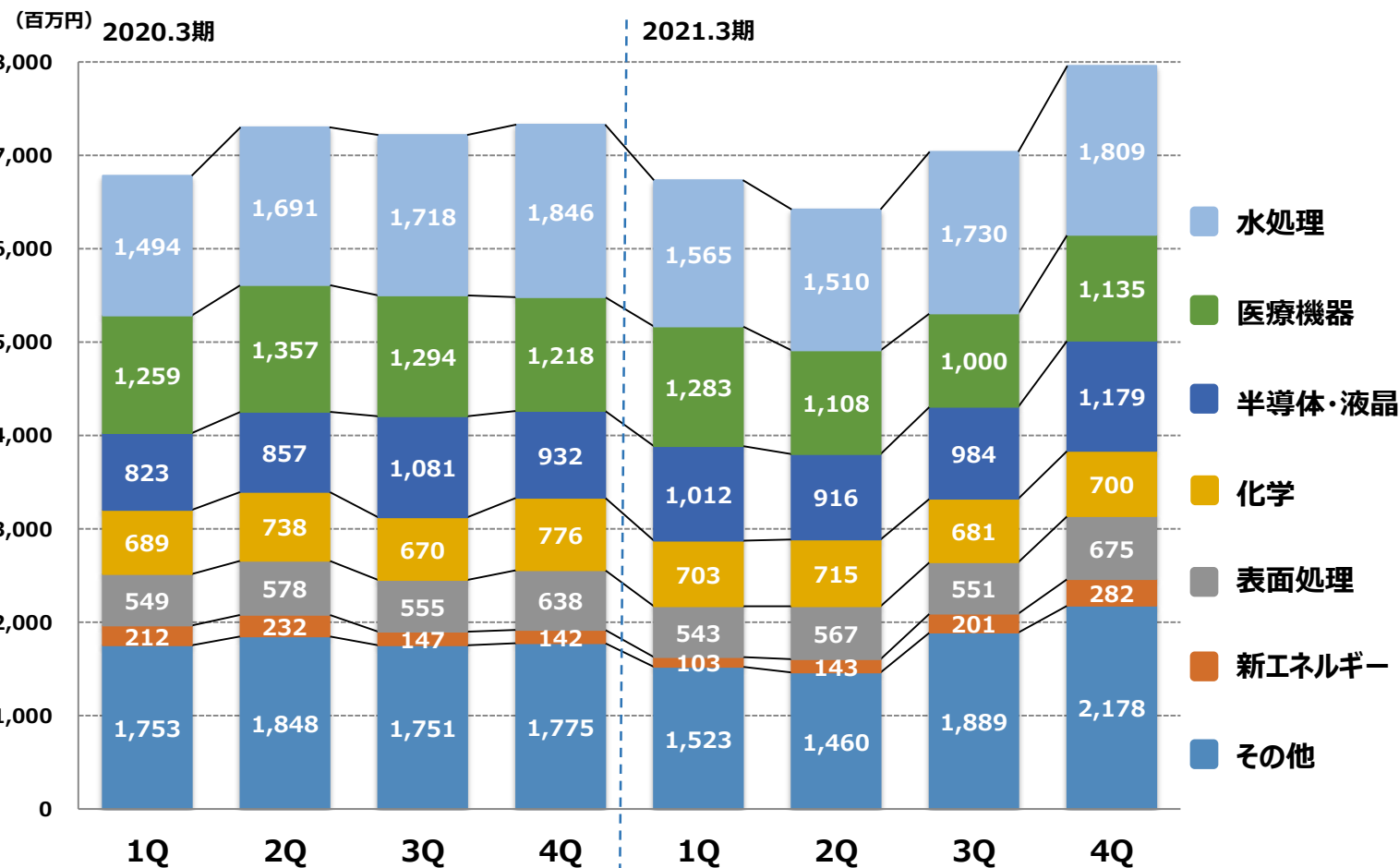
収益性の高・低

高

低

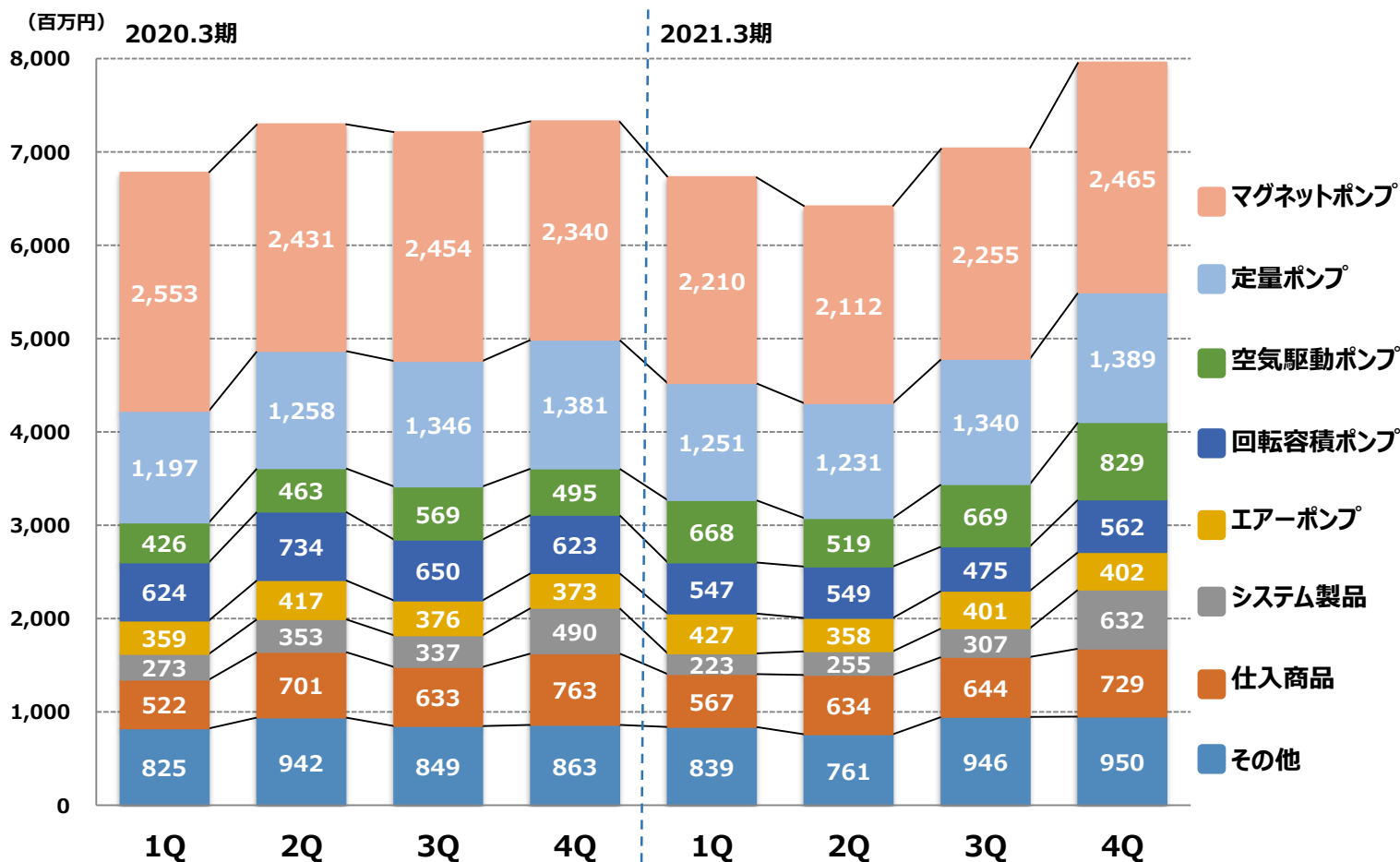


好調な市況の状況を受け、半導体・液晶向け好調。  
 年間通して中国医療機器向け好調も、国内医療機器向け落ち込みカバーするに至らず。



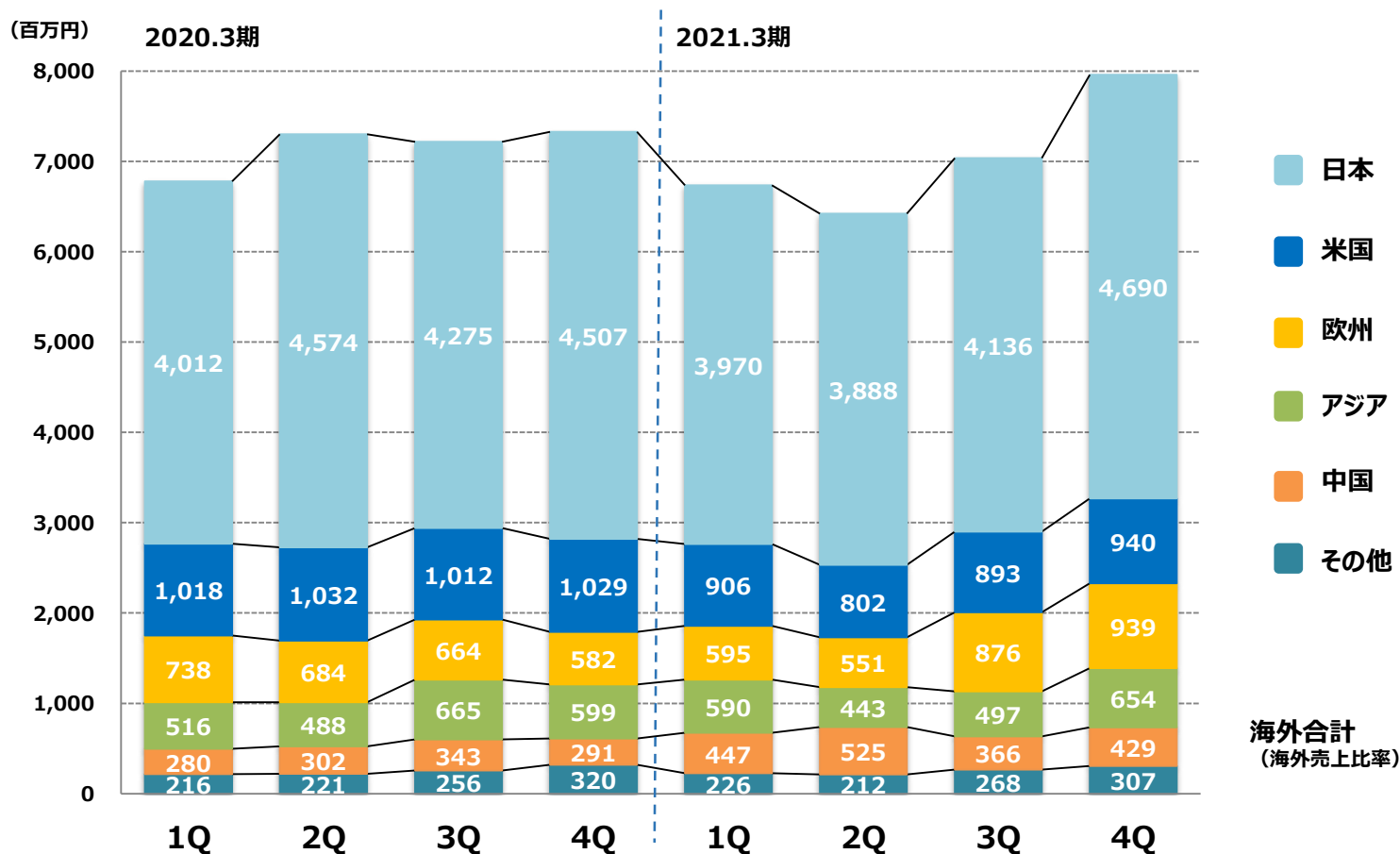
2021年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
6,616	▲133	▲2.0%
4,528	▲601	▲11.7%
4,092	397	+10.8%
2,801	▲73	▲2.6%
2,338	16	+0.7%
731	▲3	▲0.5%
7,053	▲76	▲1.1%

マグネットポンプ売上回復基調。3 Qまでの落込み大きく、前年割れ。  
半導体・液晶向け空気駆動ポンプは大幅伸長。回転容積ポンプは国内医療機器向け不振影響受ける。



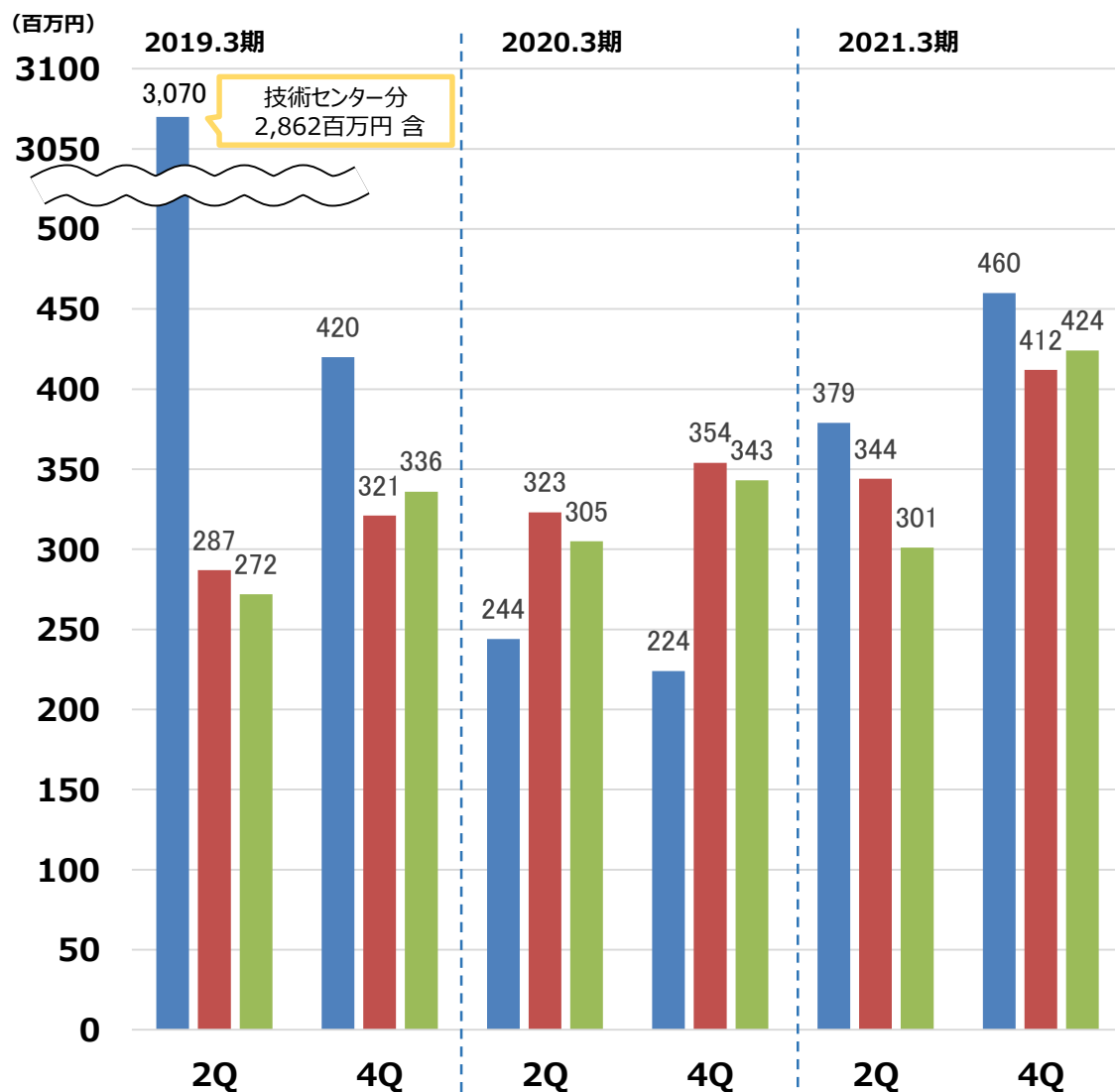
2021年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
9,044	▲735	▲7.5%
5,211	27	+0.5%
2,687	733	+37.5%
2,134	▲498	▲18.9%
1,589	62	+4.1%
1,419	▲35	▲2.4%
2,575	▲45	▲1.8%
3,499	17	+0.5%

半導体・液晶、医療機器向け中心に中国向け売上伸長。欧州 ING分売上を含んだ結果、増収。  
 2021年3月期 ING売上高影響は 648百万（連結調整前）、中国除く各地域コロナ禍影響受ける。



	2021年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
日本	16,686	▲683	▲3.9%
米国	3,543	▲549	▲13.4%
欧州	2,963	292	+11.0%
アジア	2,186	▲82	▲3.6%
中国	1,768	550	+45.2%
その他	1,014	▲0	▲0.1%
海外合計 (海外売上比率)	11,476 (40.8%)	209	+1.9%

# 13 設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2021.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
■ 設備投資	<b>839</b>	<b>+370</b>
■ 研究開発費	<b>757</b>	<b>+79</b>
■ 減価償却費	<b>725</b>	<b>+76</b>



## Ⅱ. 2022年3月期 業績見通し

持ち直しつつある設備投資動向を背景に増収・増益（経常利益まで）を見込む。

	2021.3期		2022.3期（予）	
	金額（百万円）	金額（百万円）	差額	増減率（前年比）
売上高	28,162	30,297	2,134	+7.6%
売上総利益 （売上総利益率）	9,703 (34.5%)	10,364 (34.2%)	660	+6.8% (▲0.2pt)
営業利益 （営業利益率）	1,706 (6.1%)	1,752 (5.8%)	46	+2.7% (▲0.3pt)
経常利益	2,222	2,243	20	+0.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,091	1,831	▲259	▲12.4%
1株当たり利益 （当期純利益）	94.90 円	83.78 円	▲11.12円	▲11.7%
自己資本当期純利益率 （ROE）	9.7%	8.2%	—	(▲1.5pt)
為替レート （期中平均）	ドル	106.77 円	（想定レート）104.00 円	
	ユーロ	121.88 円	（想定レート）125.00 円	

### 1 売上高 30,297百万円（前年比+7.6%、+2,134百万円）

- ✓半導体・液晶向け活況続く。その他各市場においてもコロナ禍計画延期案件の再始動をはじめ、全般的な設備投資動向も回復の見通し。
- ✓2021年3月期好調であった中国医療機器向けも、同様の状況が続く見通し。
- ✓2022年3月期より適用の「新収益認識基準」による売上高影響は軽微。

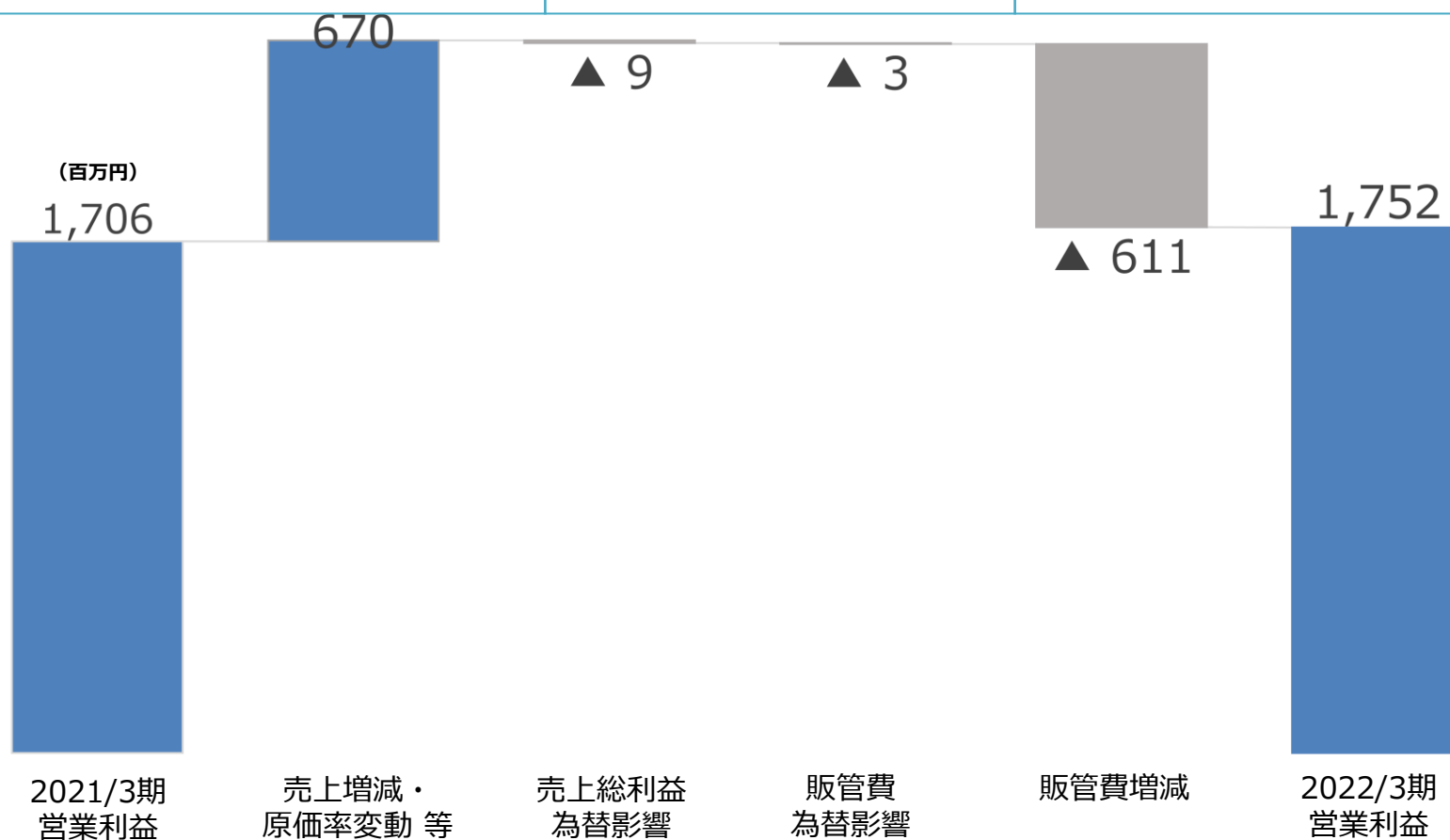
### 2 営業利益 1,752百万円（前年比+2.7%、+46百万円）

- ✓原価面（製造経費）では、生産体制再構築に伴う関連費用の先行投資、金型投資に伴う減価償却費、人員増強による人件費等の増加を見込む。
- ✓販管費面では、ING通期取込みによる販管費（2021年3月期は半期分）、同社のれん償却費（同左）、旅費交通費、展示会費用等コロナ影響緩和による経費戻り分等の増加を見込む。
- ✓結果、営業利益段階では前年比+2.7%、1,752百万円となる見通し。

### 3 親会社株主に帰属する当期純利益 1,831百万円（前年比▲12.4%、▲259百万円）

- ✓2021年3月期 特別利益 ING子会社化に伴う段階取得に係る差益（381百万円）の反動減。
- ✓最終利益では前年比▲12.4%、1,831百万円となる見通し。

為替 1 円当たりの感応度	\$ (USドル)	€ (ユーロ)
売上	49 百万円	27 百万円
営業利益	15 百万円	11 百万円



新エネルギー向け一部を除き、全体的に回復基調又は良好な市況環境を想定。

強化市場

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物工場向け栽培装置が堅調</li> <li>・リモートワークや人の移動制限等により遠隔操作用コントローラの需要が高まる</li> <li>・コロナによる延期案件の実行等により前年比増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的にバラスト水処理装置向けが復調の兆しあり</li> <li>・殺菌用途の需要が堅調</li> </ul>
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）は2Qから緩やかな回復見込み</li> <li>・内視鏡洗浄装置向けが代替需要で2Qから回復</li> <li>・人工透析装置がメンテナンス・代替需要で回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国 臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）向けが順調</li> </ul>
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次電池市場が<b>軟調</b></li> <li>・家庭用燃料電池は計画案件が動き出し一部需要回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア市場で二次電池の投資が再開、復調の兆しあり</li> </ul>
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該製造装置メーカー向け需要の回復基調続く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモリ、ファウンドリ向け設備投資が順調</li> </ul>
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高付加価値製品の開発堅調</li> <li>・環境規制によるxEV（電動車）に注力し、材料メーカーでの需要が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州・アジアを中心に二次電池材料の製造投資が復調の兆しあり</li> </ul>
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5G対応、IoT市場向けなど高付加価値電子部品の需要拡大</li> <li>・車販売増加により、車載用途が需要回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車載用やICT関連の電子部品が世界的に需要拡大</li> <li>・パッケージ基板の設備投資が好調の見込み</li> </ul>

※ 赤字はネガティブな見通し

半導体・液晶向け順調な伸びを想定。その他各市場においてもコロナ禍からの回復想定。

	2021年3月期 予想 (百万円)	2021年3月期 実績 (百万円)	増減率 (予想比)	2022年3月期 予想 (百万円)	増減率 (前年比)
水処理	6,394	6,616	+3.5%	6,962	+5.2%
医療機器	4,951	4,528	▲8.5%	4,556	+0.6%
半導体・液晶	3,817	4,092	+7.2%	4,331	+5.8%
化学	2,894	2,801	▲3.2%	3,204	+14.4%
表面処理装置	2,298	2,338	+1.7%	2,492	+6.6%
新エネルギー	608	731	+20.2%	644	▲11.9%
その他	7,316	7,053	▲3.6%	8,104	+14.9%
合計	28,280	28,162	▲0.4%	30,297	+7.6%

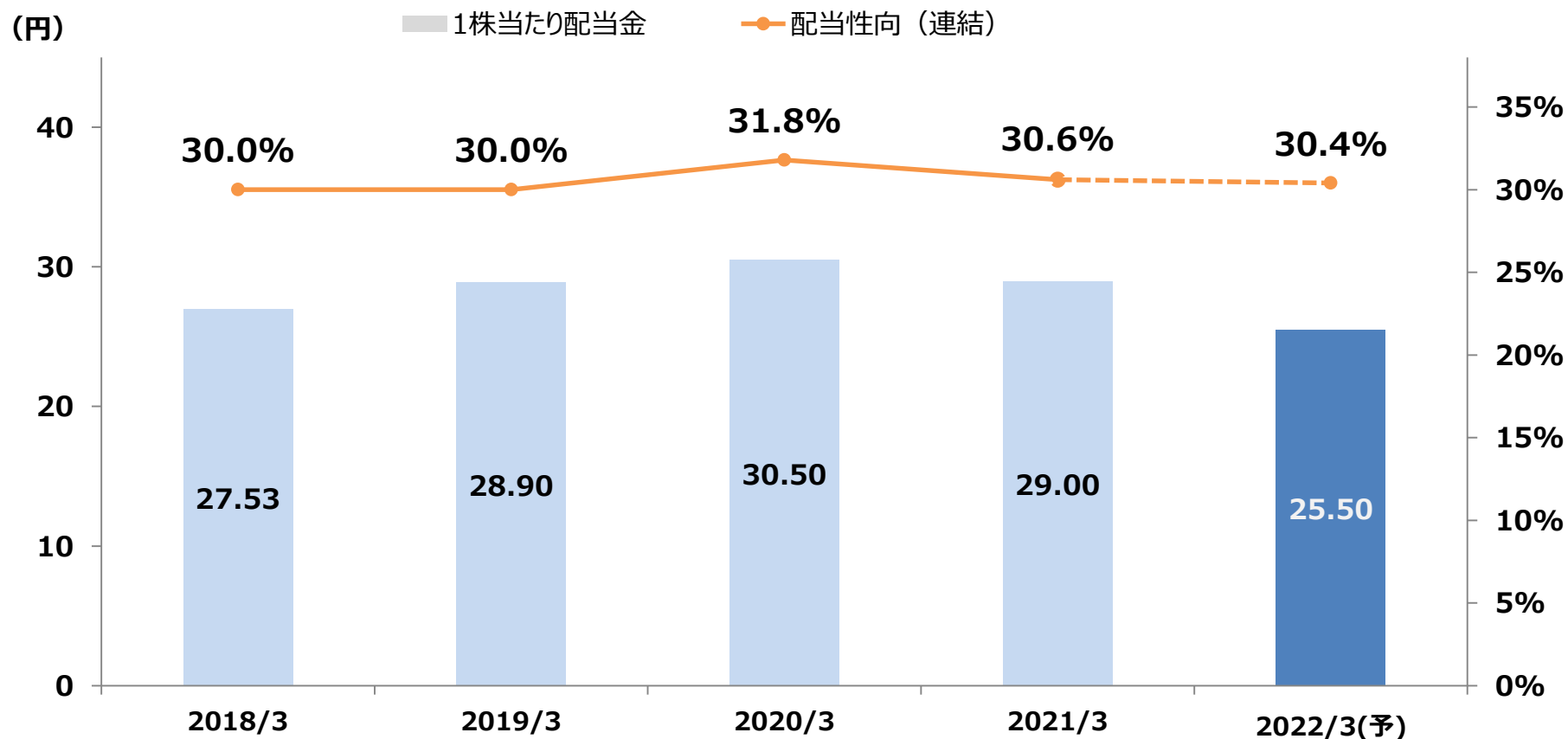
マグネットポンプはコロナ禍からの需要回復想定。海外医療機器向け伸長に伴い、エアープンプ伸びる。

	2021年3月期 予想 (百万円)	2021年3月期 実績 (百万円)	増減率 (予想比)	2022年3月期 予想 (百万円)	増減率 (前年比)
マグネットポンプ	9,516	9,044	▲5.0%	9,918	+9.7%
定量ポンプ	5,059	5,211	+3.0%	5,715	+9.7%
空気駆動ポンプ	2,159	2,687	+24.4%	2,984	+11.0%
回転容積ポンプ	2,597	2,134	▲17.8%	2,305	+8.0%
エアープンプ	1,615	1,589	▲1.6%	1,795	+12.9%
システム製品	1,257	1,419	+12.9%	1,260	▲11.2%
仕入商品	2,555	2,575	+0.8%	2,683	+4.2%
その他	3,519	3,499	▲0.6%	3,634	+3.9%
合計	28,280	28,162	▲0.4%	30,297	+7.6%

## 基本方針

・配当性向30%超

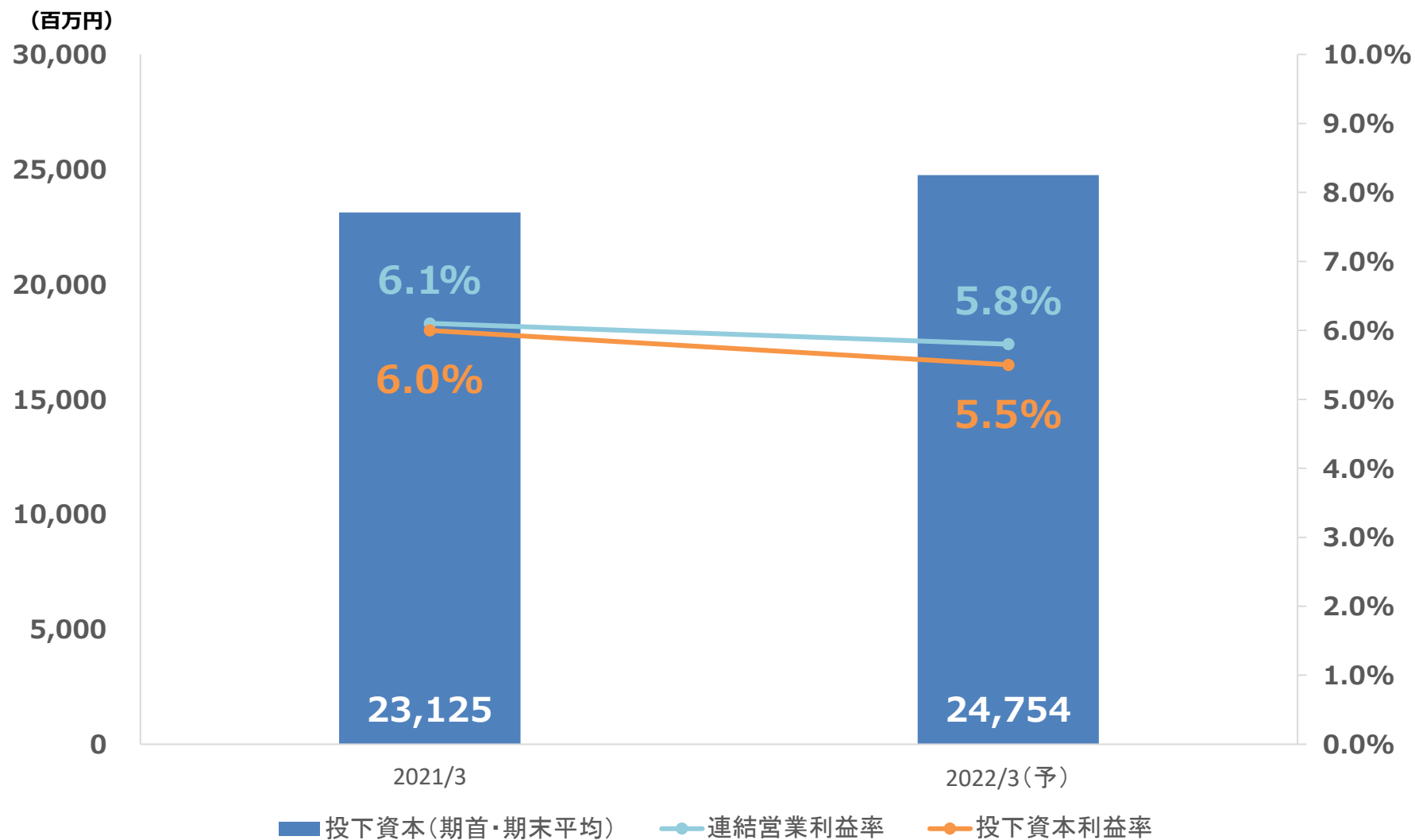
・継続的な配当



(注) 2018/3は株式の3分割を考慮し、算定しています。(小数点第三位以下は切捨)



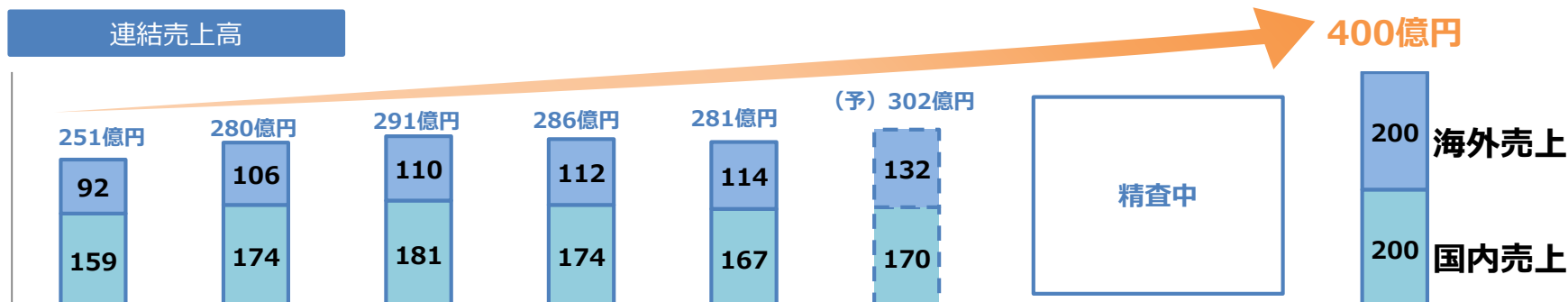
当該指標の活用により、更なる企業価値向上を目指す。



## Ⅲ. 育成期 中期経営計画について



連結売上高



連結営業利益率



定量目標

定性目標

## 「オールイワキで世界No.1を提供する」

～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

## 目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

持続的に成長する企業として  
企業価値向上を目指した成長戦略の推進

育成期における重点実施項目として以下、主な重点テーマを設定

10年ビジョン定量目標を達成するための  
具体的各種施策の設定

- 1) 生産体制の再構築
- 2) 生産及び販売計画の精度向上
- 3) 不具合の撲滅
- 4) 全社の生産性向上

持続的な企業価値向上に視点を置いた  
経営の推進

- 1) 人事制度の抜本的な見直し
- 2) 基幹システムの刷新
- 3) IoTの活用
- 4) CSR活動

## 10年ビジョン定量目標を達成するための具体的各種施策の設定

重点テーマ	育成期における主な実施内容	今後の課題
<b>生産体制の再構築</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル生産課題の抽出</li> <li>・外部倉庫活用による納期短縮の実現</li> <li>・物流機能外部委託による、生産特化体制への移行検討・実施</li> <li>・生産体制再構築プロジェクト発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部材調達力の向上</li> <li>・更なる納期短縮への取組み</li> <li>・原価低減</li> </ul>
生産及び販売計画の 精度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客情報共有、部門間協業体制推進</li> <li>・プロセス用途分 計画精度向上についての検討</li> <li>・フォーキャスト制度運用開始による出荷保留品低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協業体制の継続強化</li> <li>・計画精度向上に向けた検討継続</li> <li>・海外マーケット調査（コロナ禍により停滞）</li> </ul>
<b>不具合の撲滅</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト体制による不具合撲滅の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該プロジェクト継続推進</li> </ul>
全社の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アセアン統括本部とする基本方針の見直し</b></li> <li>・外部倉庫活用による工場内スペース確保、作業改善</li> <li>・各種業務システムの導入（得意先管理、人事労務、予算管理）</li> <li>・自動組み立てロボット導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アセアン方向性決定（コロナ禍により停滞）</b></li> <li>・ノンコア業務へのシステム導入拡大</li> <li>・ロボット化の水平展開</li> </ul>

## 持続的な企業価値向上に視点を置いた経営の推進

重点テーマ	育成期における主な実施内容	今後の課題
人事制度の抜本的な見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種制度導入検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度見直しに向けた動きの加速</li> </ul>
<b>基幹システムの刷新</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム選定完了、導入に向けたプロジェクトスタート</li> <li>システム導入に向けた各業務フローの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト推進</li> <li>2023年3月期運用開始目標</li> </ul>
I o T の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>水処理コントローラによるモニタリング、管理</li> <li>R P A 導入による業務工数削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルの構築</li> <li>モノづくりへの展開</li> <li>R P A 導入推進</li> </ul>
<b>CSR活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境法規制に対応した製品の提供 (RoHS指令/REACH規制 等)</li> <li>環境に配慮した製品開発 (高効率製品開発 等)</li> <li>従業員教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員教育継続</li> <li>RoHS/REACH対応拡大</li> <li>サステナビリティへの取り組み</li> </ul>

※ オレンジ枠：優先度高

※ 赤字：要 取り組み加速内容

## 1 プライム市場向け 改訂CGコードへの対応

✓持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図るべく、当該改訂コードへの取組によって、コーポレートガバナンスの強化を図る。

## 2 自己株式取得

✓株主還元及び資本効率の向上と経営環境に応じた機動的な資本政策遂行のため。

取得株式数 : 27万株 (上限) (発行済株式総数 (自己株除く) に対する割合1.23%)

取得価額総額 : 2億円 (上限)

取得期間 : 2021年5月14日から6月30日まで

## 3 政策保有株式の売却

✓コーポレートガバナンス・コードに基づく政策保有株式の見直し及び財務体質の強化。

2022年3月期第1四半期において保有上場有価証券1銘柄売却予定。

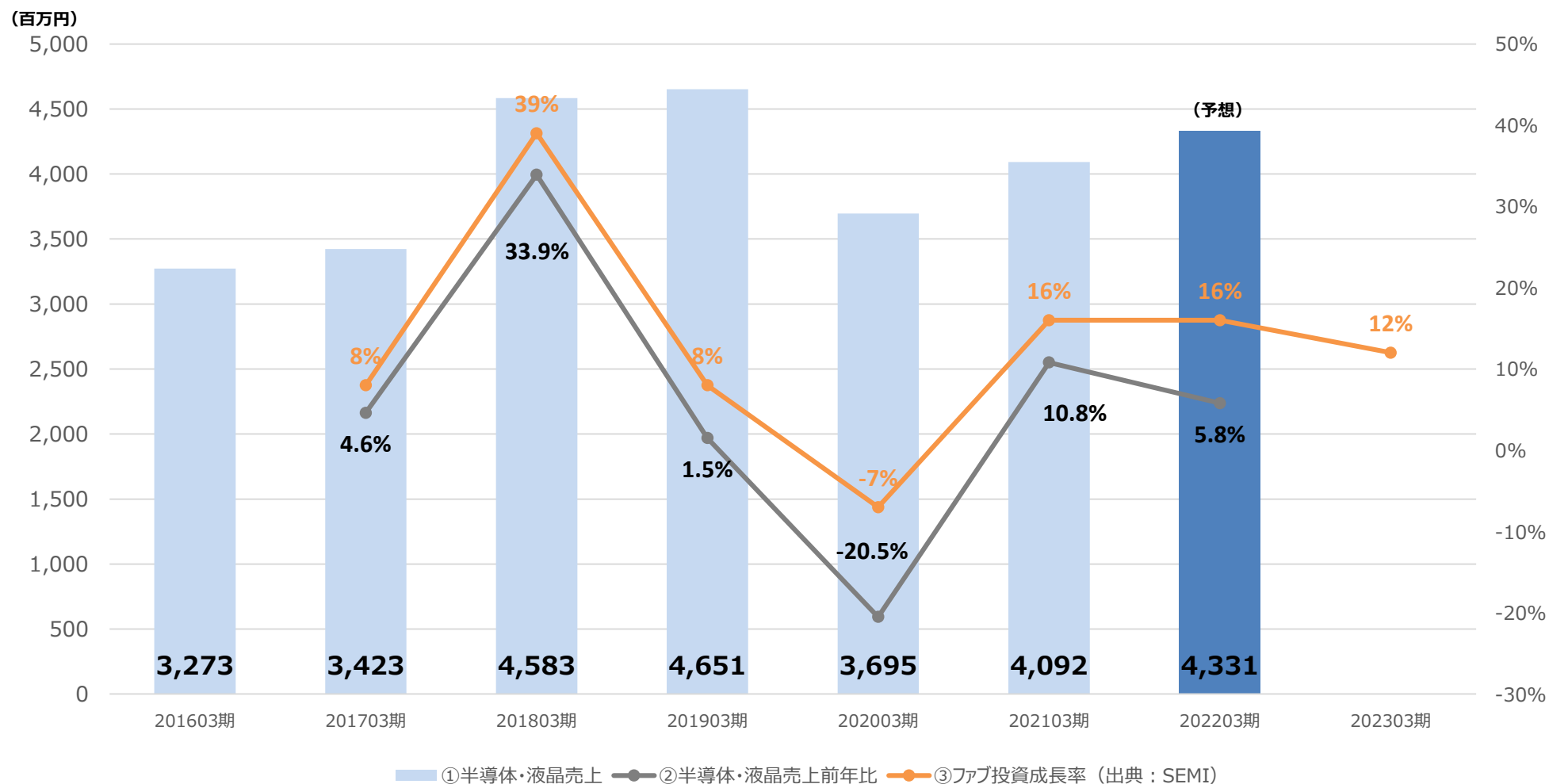
## 4 執行役員制度の導入

✓取締役会の意思決定・監督機能等の強化と業務執行機能の強化を目指す。

✓経営体制効率化、取締役会において戦略的かつ機動的な意思決定を行うため

取締役9名 → 4名 (うち2名は社外取締役) へ。(予定)

半導体・液晶向けは来期も順調な伸びが期待できる。



※ ③ファブ投資成長率は「2016年」データを「201703期」へ適用（「2017年」以降同様）としております。



SDGsをビジネスチャンスとして捉え、本業を通じた価値提供を行うべく検討していく。

当社市場別に関係するSDGs目標



当社における重要課題を特定し、  
本業を通じた社会課題への  
対応を行うべく検討していく。

半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	3 すべての人に 健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	
化学市場	化学薬液製造 他	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	6 安全な水とトイレ を世界中に	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を

## **IV. Appendix**



**会社名** 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)  
**ケミカルポンプ**の専門・総合メーカー

**設立** 1956年4月10日

**代表取締役社長** 藤中 茂

**本社** 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

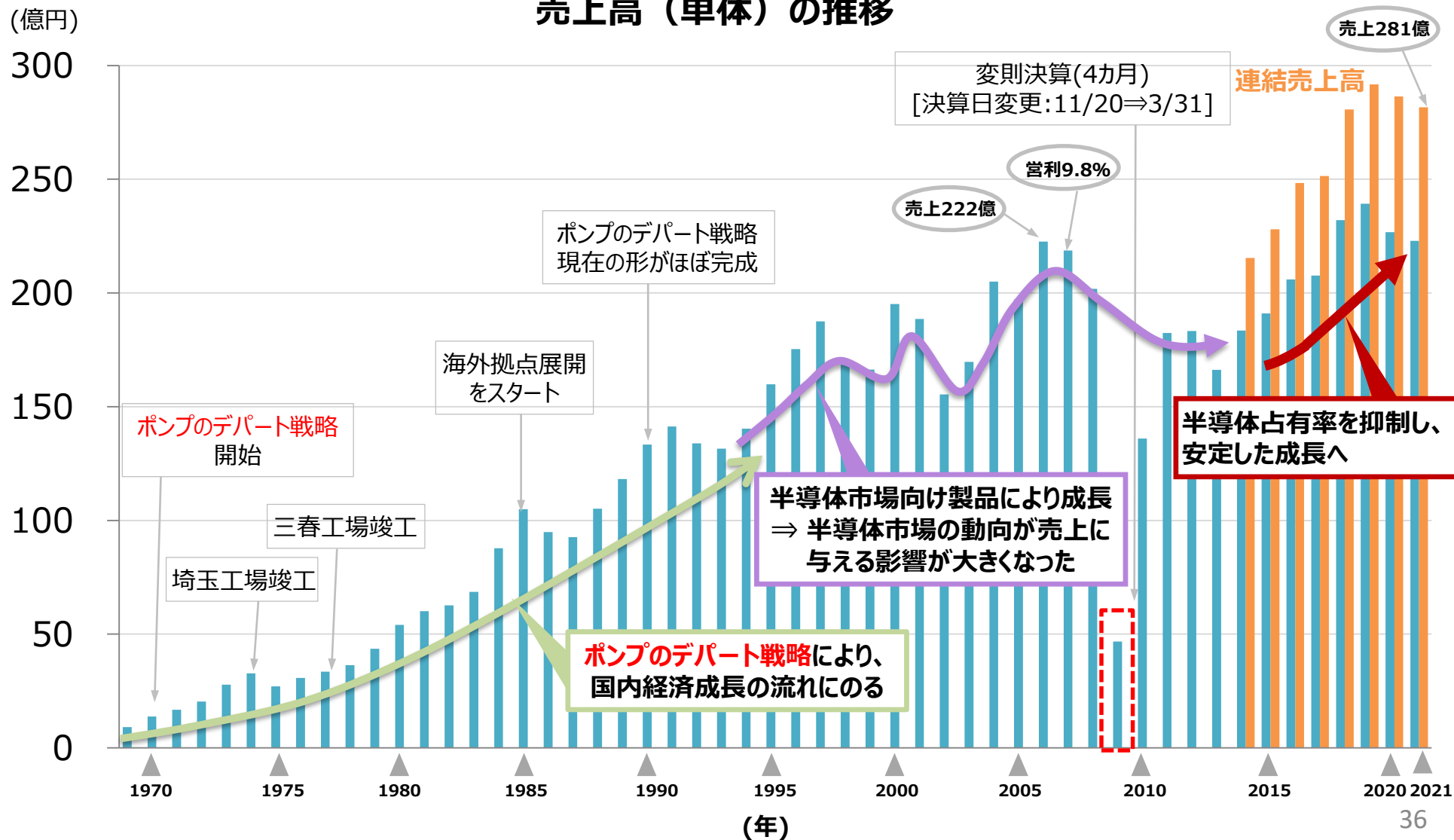
**資本金** 10億4,469万円 (2021年3月末現在)

**従業員数** 連結：994人 / 単体：766人 (ともに、2021年3月末現在)

**事業内容** ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売等

**上場取引所** 東京証券取引所  
(銘柄名：イワキポンプ / 証券コード：6237 / 市場：東証一部)

## 売上高（単体）の推移



## ケミカルポンプ<sup>°</sup> = 化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ<sup>°</sup>



水を扱うポンプとは異なり、  
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。  
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もあるため



**非常に高い安全性**が求められる  
(漏れないこと)

1

お客様の様々な要望にお応えできる  
豊富な製品ラインナップ

2

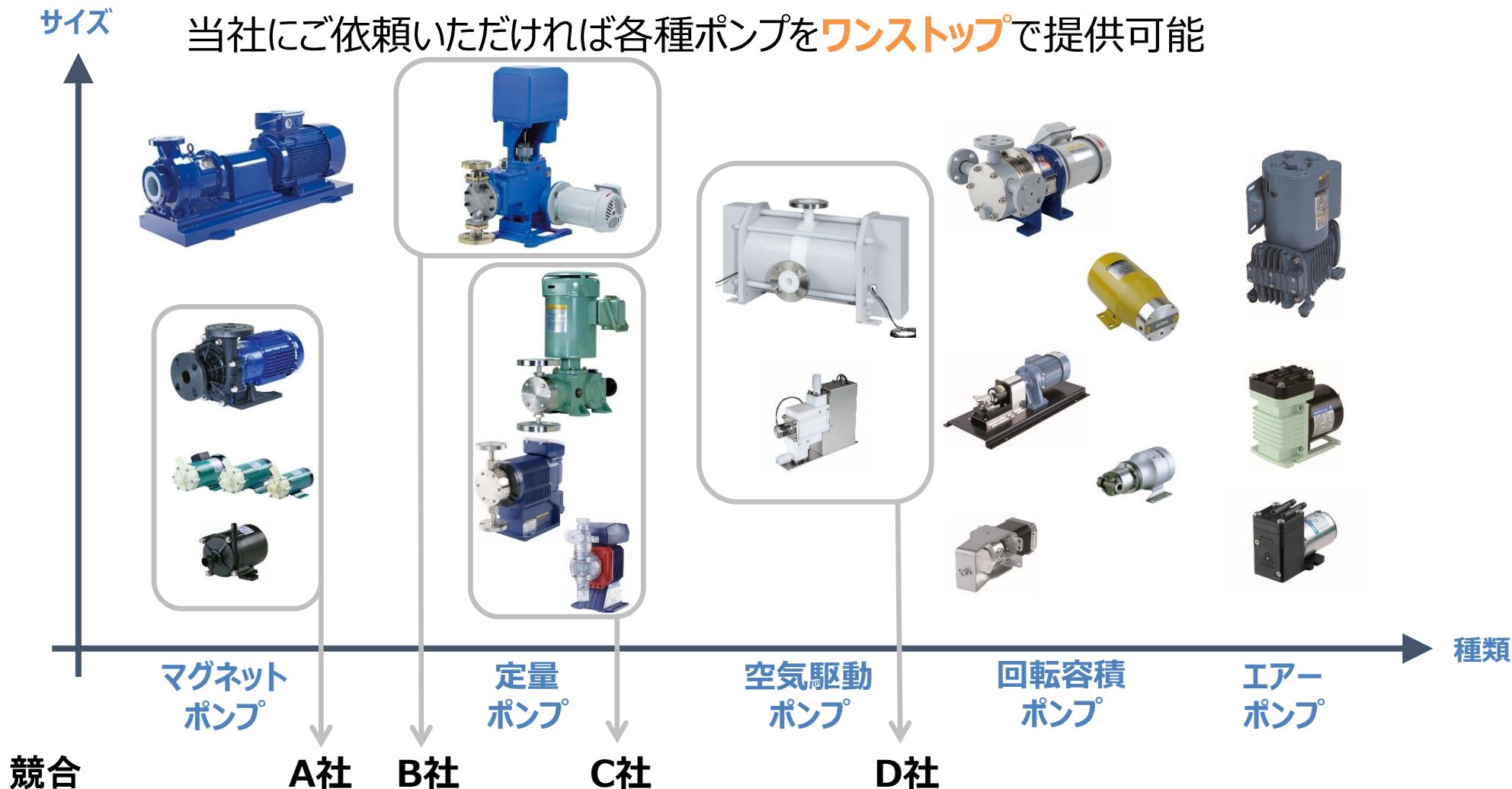
お客様への強力なサポートが可能な  
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に  
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

# 5 当社の強み 豊富な製品ラインナップ

各種ポンプにおいて**60シリーズ以上、数万点にのぼる型式**を展開  
当社にご依頼いただければ各種ポンプを**ワンストップ**で提供可能



## 多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

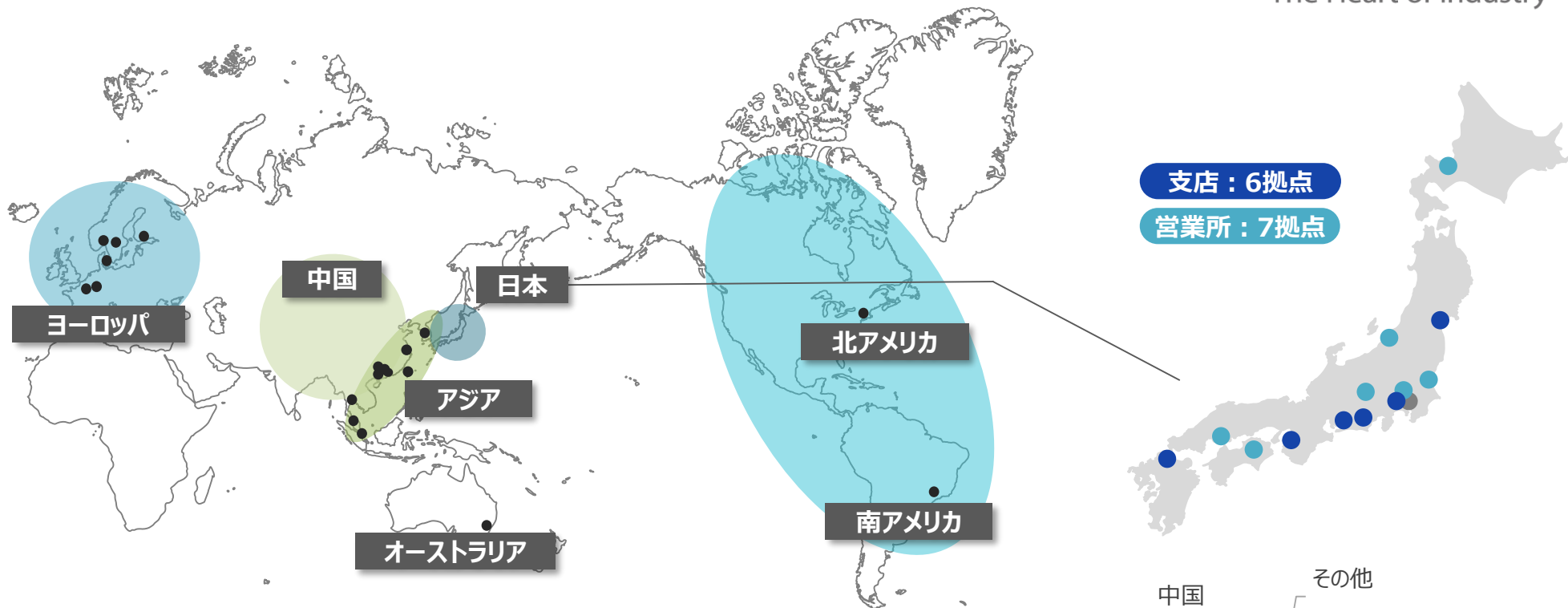
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン\*生産により短納期・在庫効率化

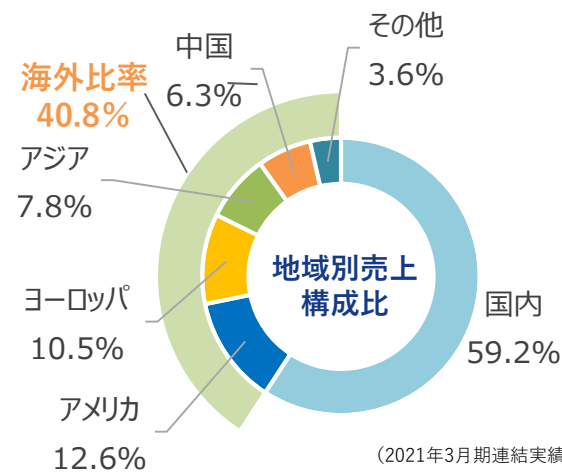
(\*ノックダウン生産 … 当社で生産された製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)







本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開  
 15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



(2021年3月期連結実績)

お客様のニーズにあったソリューションを  
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供

当社



ポンプ



流体制御ノウハウ

解決して欲しい困りごと等の

ニーズ



ユーザー(お客様)

問題解決するための

ソリューション





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、  
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

## 【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 経営管理本部 経営企画部

E-mail : [ir@iwakipumps.jp](mailto:ir@iwakipumps.jp)

受付時間 : 9時～17時30分

# 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。